

若者たちの間に広がる「やばい」の新しい用法

洞澤 伸・岩田 奈津紀

(2009年6月29日受理)

The Spreading New Usage of "Yabai" Among Young People

Shin HORASAWA and Natsuki IWATA

1. 問題提起

本稿の目的は、近年、若者たちの間に広がる「やばい」という言葉の新しい用法と意味、および、それを使用する若者たちの心理について論考することである。

「やばい」という言葉の意味は、たとえば、『広辞苑(第六版)』には次の(1)のように記述されている。「」内は掲載されているその用例である。

(1) 「やばい」(形)

不都合である。危険である。「やばい事になる」(『広辞苑』2009:2833)

このことから、「やばい」という言葉は、不都合または危険という否定的な意味を持つ形容詞であることが分かる。しかし、近年、若者たちの間では、この言葉の使い方に変化が起きている。次の(2)は、読売新聞に掲載されたある読者(38歳の主婦)からの投書である。

(2) 「長男が歩き始めて間もない時のことです。一緒に手をつないで歩いていると、前からやって来た若い2人の女性が息子の顔を見て「やばいよね～」と言いました。何が「やばい」のかといぶかしく思っていると、「超萌(も)え～。かわいいよね」と笑顔で去って行きました。我が子を褒めてもらえるのはうれしいことですが、複雑な気持ちになりました。「やばい」という言葉は私もかつて使っていました。しかし、その時は「まずい」という意味で使用していたからです。今のはやり言葉には、首をかしげてしまうことが時々あります。」

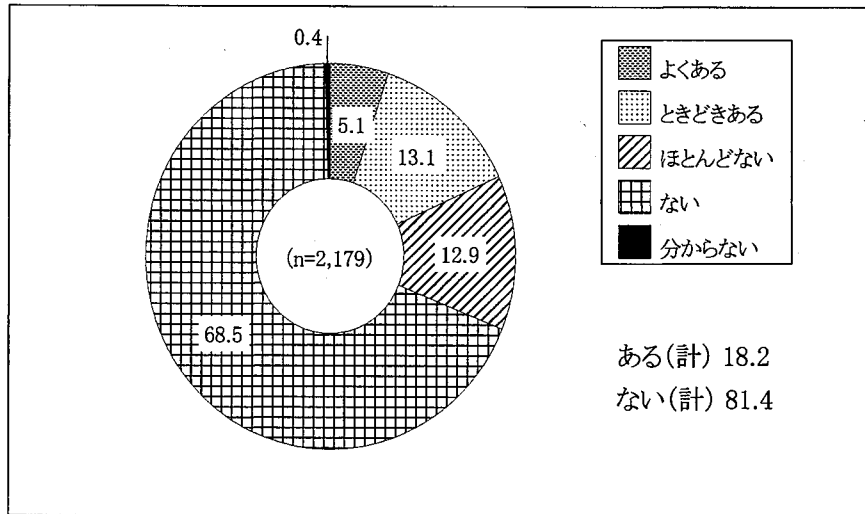
(『気流』読売新聞080413)

この投書(2)に出てくる若い2人の女性は、歩き始めて間もない男の子の可愛さを褒めるために「やばい」という言葉を使用している。この場合、それは「かわいい」という肯定的な意味であり、

国語辞典の記述にある否定的な意味(1)とは大きく異なる。その意味は、否定的なものから肯定的なものへと逆転している。これが、近年、若者たちの間に広がっている「やばい」の新しい用法の一つである。この母親は、「やばい」という言葉を否定的な意味でのみ理解しているために、このような肯定的な意味で「やばい」が使われていることに違和感を感じている。

「国語に関する世論調査(平成16年度)」(文化庁2005:75-78)では、最近の会話で時々聞かれる言い方の一つとして「とてもすばらしい」という肯定的な意味で「やばい」と言うことがあるかどうかについて尋ねている。それは、肯定的な意味での言い方をすることについて「よくある」「ときどきある」「ほとんどない」「ない」「分からない」の5つ中から選ぶというものである。なお、その肯定的な意味には「とてもすばらしい」の他、「良い」「おいしい」「かっこいい」なども含まれている。この調査は全国16歳以上の男女3,000人を対象に行われ、有効回収数(率)は2,179人(72.6%)であった。次のグラフ(3)は、その結果を示したものである。

(3) 言い方の使用頻度(%)

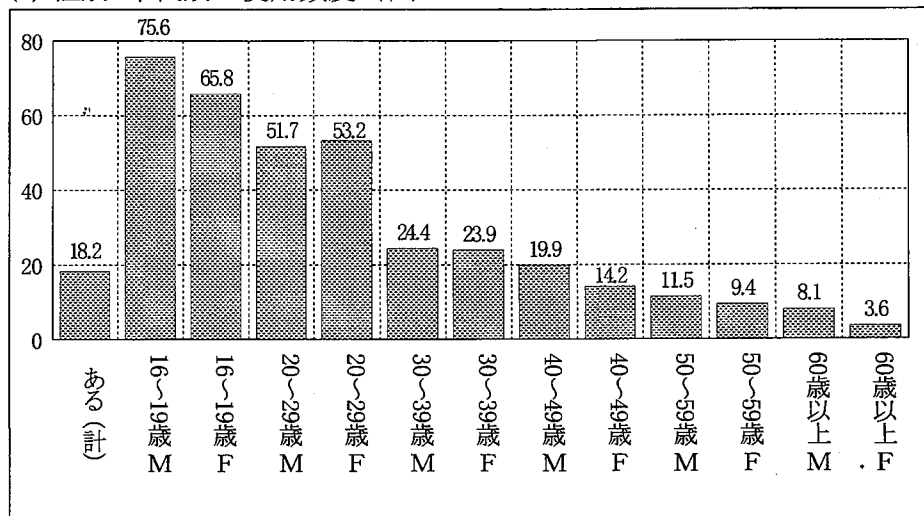


(文化庁2005より作成)

このグラフ(3)から、次のことが分かる。この言い方をすることが「よくある」(5.1%)および「ときどきある」(13.1%)を合わせた「ある(計)」の割合は18.2%となる。他方、「ない」(68.5%)および「ほとんどない」(12.9%)を合わせた「ない(計)」の割合は81.4%であり、それは全体の8割を超える。したがって、全体的に見れば、「やばい」を肯定的な意味で使うのは全体の2割にも満たない。

しかし、これを性別・年代別に見てみると、とても興味深いことが分かる。次のグラフ(4)は、「やばい」を肯定的な意味で使う人の割合を性別・年齢別に示したものである。年齢に続くアルファベットは性別を表している。全体では18.2%と高くはないが、16~19歳男性は75.6%、女性は65.8%と高い割合を示している。20~29歳でも男女共に50%を超えている。しかし、30歳台ではこの割合は急に少なくなり25%を下回る。年齢層が高くなると、肯定的な意味で「やばい」を使う人の割合はさらに減少していく。50歳台では1割前後、60歳以上では1割にも届かない。よって、肯定的な意味の「やばい」の使用は、年齢による格差がとても大きいことが分かる。年長世代の多くは、「やばい」を肯定的な意味では使用していない。したがって、年長世代は「やばい」の意味を一般的に否定的な意味においてのみ理解していると考えられる。

(4) 性別・年代別の使用頻度 (%)



(文化庁2005より作成)

このことから、「やばい」を肯定的な意味で使うのは若者たちの言葉遣いの特徴だと言える。つまり、それは「若者ことば」の一つなのである。しかし、同時に若者たちすべてが「やばい」を肯定的な意味で使用しているわけではないことも分かる。「若者用語」の解説(『現代用語の基礎知識』自由国民社)における肯定的な意味の「やばい」の初出は2001年版である。『若者ことば辞典』(米川1997)には、まだそのような記述はない。なお、「やばい」はもともとは盗人、犯罪者、的屋などが「身边が危険である」という意味で使った隠語であったことが知られている。

以上のことを踏まえ、本稿では若者たちが使う「やばい」という言葉について、実際の具体的な発話例をもとに次の(イ)と(ロ)の2つの問題を考察する。

(イ) 「やばい」の用法と意味

(ロ) 「やばい」を使う若者たちの心理

問題(イ)については、若者たちが使う「やばい」にはどのような用法があり、何を対象として、どのような意味で使用するのかを分析する。その際、新しい用法である肯定的な意味の「やばい」だけではなく、従来の否定的な意味での用法についても焦点を当てる。そのことによって、両者の対照性がより明らかになると思われる。また、その両者の対照性から推測できる「やばい」の新しい用法の広がり方についても考えてみたい。問題(ロ)については、なぜ若者たちは「やばい」を否定的な意味だけではなく、肯定的な意味においても使用するのかについて考察する。そこには若者たちの人間関係を表す特有の心理があると思われる。また、そのことに関して言語が持つ機能の一側面についても論及する。

これまで若者たちが使う「やばい」については、限定的な少数の用例にもとづく概説的な考察があるだけである(たとえば、稲増2002, 秋月2005, 矢澤2005, 窪田2006, 武内2007, 梶井2008など)。これらについては、本論の中において必要に応じて言及することにする。本稿に示すような実際の多くの具体的な発話例にもとづいて「やばい」の用法と意味、および、その話し手の心理を明らかにしようとする研究はまだ行われていない。

2. アンケート調査

2005年12月、2006年10月、2007年10月および2008年10月に岐阜大学の学生合計531人(男性197人、女性328人、性別不明6人)を対象に「やばい」という言葉の使い方についてのアンケート調査を実施した。その質問内容は、「やばい」の使用について次の(5)(a)および(b)の2点を尋ねるものであった。

- (5) (a)否定的な意味と肯定的な意味で使うことがあるか
 (b)否定的な意味と肯定的な意味での発話例と意味

以下では、否定的な意味で使われる「やばい」を<否定的な「やばい」>、肯定的な意味で使われる「やばい」を<肯定的な「やばい」>と呼ぶことにする。アンケート調査では、<否定的な「やばい」>と<肯定的な「やばい」>のそれぞれにつき、(5)(a)それを使うことがあるかどうかについて質問した。そして、(5)(b)使うとすれば実際にそれをどのように使うのかについて発話例をあげてその意味を説明してもらった。<否定的な「やばい」>と<肯定的な「やばい」>の使用者と非使用者の人数(および、その割合)については、次の表(6)のような結果になった。

(6) 「やばい」の使用について (人)

	使用する	使用しない	合計
<否定的な「やばい」>	524 (98.7%)	7 (1.3%)	531
<肯定的な「やばい」>	485 (91.9%)	43 (8.1%)	528

調査の対象者531人のうち、<否定的な「やばい」>の使用者は524人(98.7%)、<肯定的な「やばい」>の使用者は485人(91.9%)であった。なお、<肯定的な「やばい」>において合計が調査対象者531人でなく528人になっているのは、無記入の回答者が3人いたためである。<肯定的な「やばい」>の使用者の割合(91.9%)は、<否定的な「やばい」>の使用者の割合(98.7%)に対して幾分少ない。しかし、<肯定的な「やばい」>は今回の調査の対象とした若者たちの大部分において使用されていることが分かる。この点においては、先に示したグラフ(4)性別・年代別の使用頻度(文化庁2005)における若者たちの使用割合よりもかなり大きな数値となっている。調査の方法と対象が異なるので単純な比較はできない。しかし、新しい用法の「やばい」は、この数年の間に若者たちにさらに広く普及したとも考えられる。なお、文化庁の調査(文化庁2005)によれば、性別に見ると、<肯定的な「やばい」>の使用割合については女性よりも男性に多いという。しかし、性差については、今回のアンケート調査において特に大きな違いは見られなかった。以下では、(5)(b)において集まった500以上にのぼる実際の発話例を対象として分析を進めることにする。なお、「やばい」の他、「やべー」「やばっ」「やばいなー」「ヤバイ」などもそのバリエーションとして考察の対象にしてある。

3. 分析

アンケート調査によって集まった「やばい」の発話例をその用法において分類した。その結果、次の(7)(a)~(c)の3つの用法があることが分かった。

(7) (a)述語的用法 (→3.1.)

(c)独立語的用法 (→3.2.)

(b)副詞的用法 (→3.3.)

次に、それぞれの用法ごとに<否定的な「やばい」>と<肯定的な「やばい」>の具体的な発話例をあげて、使われる場面とともにその意味について分析を行う。

3.1. 述語的用法の「やばい」について

述語的用法の「やばい」では、ある出来事の状況を説明するために「やばい」が使用される。

3.1.1. 述語的用法の<否定的な「やばい」>について

述語的用法の<否定的な「やばい」>の例として、たとえば、次の(8)~(21)がある。なお、各発話例は(使われる場面)「会話例」(発話者の性別, 生年)の順に示してある。

(8) (ピンチだったり、どうしようもないときに)「レポート忘れてた!!明日までだよ~」
「それヤバイって」(F,'84)

(9) (時間厳守のバイト先に遅刻しそうとき)「遅れたらヤバイんだって」(F,'85)

(10) (友達と成績表を見て)「単位少なくてマジでやばい」(M,'87)

(11) (学校へ行くための電車のダイヤが乱れていて、授業に間に合いそうにもないときに)「このままだと、やばいよね」
「本当、絶対やばいって」(F,'86)

(12) (テスト前日であるのに全く勉強していない時)「明日のテストヤバイんだけど」
「え。絶対私の方がヤバイし。ってか私よりヤバイ人いないし」(F,'87)

(13) («良くなかった」という意味で)「今回の成績どうだった？」
「やばかった」(F,'86)

(14) (テストが終わった後で、テストの出来が「悪かった」という意味で)「今回やばいー」
「マジで。私もやばい」(F,'88)

(15) (友人と会話中、レポートを提出し忘れていないことに気がついた)「しまった、レポートまだ出してない！」
「それやばいじゃん、早く行かないと」(M,'87)

(16) (友達と野球をして遊んでいて、打ったボールが窓ガラスを割ってしまった)「どうしよう？」
「これはやばいって！」(M,'87)

(17) (友達と2人で歩いていて、友達が店の商品を落としてしまったときに)「お前、これヤバイだろ！」(M,'89)

(18) (最近友達は事故に遭って、電話で様子を聞いた時)「どう、大丈夫だった？」
「やばかったよ。死ぬところだったよ」(F,'80)

(19) (友達の様子が辛そうな場合)「ちょっと顔色ヤバイよ。大丈夫？」(F,'88)

(20) (体調が悪いときに友達に対して)「今日お腹痛くてまじヤバイんだって」(F,'89)

- (21) (友達が包丁で指を切ってしまったとき、血がだらだら垂れてきて、予想以上の傷の深さに)
「やばいね、大丈夫？」(F,'89)

これら(8)～(21)における「やばい」は否定的な意味において使われている。たとえば、(8)では友人がレポートを忘れていたことに対して「やばい」、(9)ではバイトに遅れそうな状況にあることに対して「やばい」、(10)では取得した単位が少ないことに対して「やばい」、(11)では授業に遅れそうなことに対して「やばい」、(12)ではテスト勉強していないことに対して「やばい」、そして、(13)では成績の結果に対して「やばい」が使われている。「やばい」の評価対象となる出来事は多様であるが、そのほとんどが発話者(一人称)、または、その話し相手(二人称)である友人が何かを失敗したような事柄である。たとえば、レポートの提出を失念していたことなど、当然、そのときまでにやっておくべきことができていないことが多い。それは、提出物、テストの成績、授業への出席またはバイト先への出勤など、大学生活または社会生活をおくる上で当然守るべき取り決め、または、達成すべき成果などに関係することである。そのため、提出期限や出勤時間など、時間に関係する事柄が目立つ。その他、(16)窓ガラスを割ってしまったこと、(17)店の商品を落としてしまったこと、(18)事故に遭ったこと、(19)友人の体調など、日常生活において生じうるさまざまな出来事を否定的に評価する場面で使われている。

これらの事例にける「やばい」は、ある出来事の状況を否定的に評価する属性形容詞として使用されている。そして、その出来事は発話者自身(一人称)が直接的に関わること、または、聞き手(二人称)がおかれた好ましくはない状況であることに特徴がある。また、その他の人・物(三人称)に関わる出来事が話題になることもある。これら(8)～(21)の例における「やばい」は、ほぼ国語辞典どおりの「不都合である。危険である。」という意味(1)であると言ってよい。

また、発話時点を基準にした場合、「やばい」と評価される出来事は、過去、現在、未来の3つに時間区分することができる。たとえば、(13)「今回の成績の結果」、(14)「受けたテストの結果」、(18)「最近遭った事故」などにおいては、「やばい」は過去に起きた出来事の状況に対し使われている。また、(8)「レポート忘れてた!!明日までだよ～」—「それヤバイって」においては、レポートの提出を失念しているという現在の出来事に対する評価である。そして、未来の時点でそのことによってたらされる結果、たとえば、授業単位の不認定などに対する評価もそこに含まれていると言える。そのことは、(9)「遅れたらヤバイんだって」、(11)「このままだと、やばいよね」などにおいてより明確である。それは未来の結果的状況を予測した使い方である。すなわち、それは現時点の状況が続くと、結果として好ましくないことになるという意味で使われている。その他の例についても同様である。つまり、「やばい」の評価対象となる出来事には、そこに時間の幅が認められる。これらの場合においては、過去や現在の出来事の状況を発話時点において評価するだけではない。「やばい」は、未来の結果的状況をも予測して使われていることが分かる。

これら(8)～(21)のような発話例に対して、国語辞典の意味とは異なる使い方をされている<否定的な「やばい」>がある。そのような「やばい」の使い方の例として、たとえば、次の(22)～(35)がある。

- (22) (人の部屋に入ったとき、その部屋が汚いと)「この部屋やべえ」(M,'88)
(23) (髪の色を見て、「ひどいよ」と言っている場面)「髪の色やばいよ」(F,'87)

- (24) (お菓子の新商品を買ってみて、食べたらずくて食べたものじゃなかったとき)「この菓子、ヤバい!!!」(F,'85)
- (25) (映画について「恐い」という意味で)「あの映画はかなり恐くなかった?」—「あれはやばいねー」(M,'86)
- (26) (友達と学校で昼食を食べている時、オタクっぽい人がいた)「ねえ、あの格こうやばくない?」—「やばい、やばい。あり得ないね」(F,'86)
- (27) (冬に半そで・短パンで校内を歩いている人を見て)「ねー、あの人やばくない?」(F,'86)
- (28) (簡単なテストで悪い点をとった友人に対して)「お前、頭やばいんちやうか?」(M,'87)
- (29) (後期の授業について先パイに聞いたとき)「ああ、あの授業はヤバイよ、他のにしときゃあ。大変」(F,'88)
- (30) (元彼を追いかけ回している友達についての話で)「あの子、結構やばいよね」(F,'89)
- (31) (後期の時間割を見て)「後期の時間割やばい」(F,'88)
- (32) (やりたくない課題が出されたときに、独り言であったり、友達と話す中で)「この課題やばくない?」(F,'87)
- (33) (カップルの友達同士が気まずそうである、という意味で)「あの二人やばそうじゃない?」(M,'87)
- (34) (町でとても奇抜、あるいは全くおしゃれに興味のない人のような服装で歩いている人を見かけて)「おかしい」「気持ち悪い」などという意味をこめて「あの人、ヤバくない?」(F,'89)
- (35) (友達とそれぞれの大学の話をしている、「ありえない」の意味で)「うちの大学やばいよ! 携帯の電波入らないんだよ」—「まじで? それやばいー!!」(F,'90)

これら(22)~(35)の例における「やばい」は、国語辞典の意味(1)「不都合である、危険である」とは異なる使い方がされている。たとえば、(22)「この部屋やべえ」においては「汚い」、(23)「髪の色やばいよ」ではその状態が「ひどい」、(24)「この菓子、ヤバい!!!」においては「まずい」または「おいしくない」という意味で使用されている。(25)「あの映画はかなり恐くなかった?」—「あれはやばいねー」においては、「恐い」という意味である。(26)「ねえ、あの格こうやばくない?」においては、「変である」または「おかしい」という意味である。その他の例における「やばい」も何からの否定的な意味を持つ形容詞(または形容動詞)に置き換えることができる。つまり、これらの場合における「やばい」は、国語辞典の意味(1)から離れて、否定的な意味を持つさまざまな属性形容詞の代わりとして使われている。

また、これらの場合における「やばい」の評価対象となる出来事は、発話者(一人称)またはその話し相手(二人称)である友人などが関わる出来事とは限らない。第三者、つまり、発話者(一人称)と聞き手(二人称)以外の人・物(三人称)が話題となる出来事に対する評価として使われる場合が多い。たとえば、(26)「ねえ、あの格こうやばくない?」は、たまたま目撃したオタクっぽい人に対する評価である。(30)「あの子、結構やばいよね」、(33)「あの二人やばそうじゃない?」、および、(34)「あの人、ヤバくない?」においても同様である。次に話題となる出来事の時間については、たとえば、(25)「あの映画はかなり恐くなかった?」—「あれはやばいねー」では過去に見た映画が話題となっている。その他、(22)「この部屋やべえ」においては、その部屋に入ってその部屋を見たその時点における評価である。(24)「この菓子、ヤバい!!!」においては、そのお菓子を口にしたその瞬間における「まずい」「おいしくない」味がするという意味である。

(26)「ねえ、あの格こうやばくない？」においては、オタクっぽい人を見たその時点における「変である」または「おかしい」という評価となっている。(35)「まじで？それやばいー!!」では、現在ばかりでなく、未来の不都合な出来事を予測して「やばい」が使われている。

若者たちの「やばい」の使い方を論じる場合、とかくその新しい用法、つまり、肯定的な意味における使用ばかりが目される。しかし、こうして見てみると、従来の否定的な意味における「やばい」においても、若者たちにおけるその用法には国語辞典における意味(1)からの意味的な広がりとは一定の規則性があることが分かる。

3.1.2. 述語的用法の＜肯定的な「やばい」＞について

述語的用法の＜肯定的な「やばい」＞の例として、たとえば、次の(36)～(49)がある。

- (36) (友達とハーゲンダッツを食べたとき)「これ超おいしくない？」—「うん、本当やばい。おいしすぎ」(F,'89)
- (37) (「気持ちよかった」の表現よりも更に気持ちが盛り上がっているときに使います。遊園地で)「これやばいね!!めっちゃおもしろかった！」—「ね！もう一回乗ろ！」(F,'87)
- (38) (友達と買い物をしていて)「これ半額だって！」—「それヤバくねえ??マジ安いやん!!」(M,'85)
- (39) (買い物に行き、とても気に入った服を見つけたとき)「この服やばくない？」(F,'87)
- (40) (友達がオシャレな格好をしているときに)「お前、今日やばいな！」(M,'86)
- (41) (店員さんがお客さんに商品をすすめる時)「これヤバいっしょー？新商品なんだけどねー」(F,'85)
- (42) (すごくカッコいい人を見て)「あの人ヤバくない？」—「ヤバイよ、細いしね」(F,'85)
- (43) (妹と私が、妹のクラスメートのA君について話している時。何でもできてすごいなあ、という意味を込めて)「A君やばいなあ」(F,'87)
- (44) (特に食べ物がおいしいときに使う。友達と話題のレストランに食べに行ったとき、料理を食べ)「これやばいよね！」—「うん。これはやばいよ!!」(F,'85)
- (45) (試合で活躍できた時)「1試合で5得点も入れるなんて私やばいかも」(F,'88)
- (46) (友達と会話をしているときに、何か驚くことや興味を引かれるような内容を聞いた時、相づちとして)「それはやばいなー」(F,'88)
- (47) 「あの映画やばかったねー!!」—「ねー。めっちゃ感動したよね」(F,'88)
- (48) (ロックグループの曲を友だちと聞いていて、ギターソロのところで「演奏がかっこよかった」という意味で)「ここのギター、ヤバいよねー」(F,'88)
- (49) (買い物をしている時、友だちや独り言として「すごくかわいい」の意味で)「このワンピースやばいよね」(F,'88)

これら(36)～(49)の例における「やばい」は肯定的な意味で使われている。たとえば、(36)「うん、本当やばい。おいしすぎ」においては食べ物に対して「おいしい」という意味で、(37)「これやばいね!!めっちゃおもしろかった！」では遊園地の乗り物が「気持ちよかった」という意味で、(38)「これ半額だって！」では「(商品が)安い」という意味で、そして(39)「この服やばくない？」では「素敵な」という意味で使われている。(40)「お前、今日やばいな！」では「おしゃれで

ある」、(42)「あの人ヤバくない？」では「格好いい」とい意味で使用されている。このように、「やばい」は肯定的な意味を持つさまざまな形容詞(または形容動詞)の代わりとして使われている。

また、これらが使われる場面は、良い物や素敵な人を発見したとき、何かに感動したときなどに、その喜びや驚きを表す言葉として、また、それらの物や人を褒める言葉として使われている。つまり、それは属性形容詞としての側面を持つとともに、その発話時点における発話者の感情を表す感情形容詞としての側面もある。〈肯定的な「やばい」〉の評価対象となる出来事の話題は、たとえば、(45)「私やばいかも」のように発話者(一人称)、または、(40)「お前、今日やばいな！」のように聞き手(二人称)になることもある。しかし、出来事の話題になるのは、発話者(一人称)や聞き手(二人称)よりも、食べ物、音楽、映画、洋服、話題または第三者など、その他の人・物(三人称)であることがとても多い。また、評価対象となる出来事の時間は、その多くが発話時点における現在である。つまり、たとえば、(47)「あの映画やばかったねー!!」—「ねー。めっちゃ感動したよね」のように、過去の出来事を振り返って肯定的な意味で「やばい」を使う発話例はあるが、その数はとても少ない。また、未来の出来事を予測して肯定的な意味で「やばい」と評価するような発話例は今のところ見つかっていない。それは、〈肯定的な「やばい」〉が発話時点における発見的出来事に対して発せられる感情形容詞としての側面が強いからである。そのため、過去や未来の出来事に対しては使われにくいと考えられる。

3.2. 独立語的用法の「やばい」について

独立語的用法の「やばい」では、感嘆詞のように独立語的に「やばい」が使用される。

3.2.1. 独立語的用法の〈否定的な「やばい」〉について

独立語的用法の〈否定的な「やばい」〉の例として、たとえば、次の(50)~(63)がある。

- (50) (朝寝坊をして、バイトに間に合いそうもないある朝、目覚ましを見たとき)「やばい、セットしてたのに！」(M,'87)
- (51) (友達との会話)「レポートやった？」—「やばい！忘れてた！まだやってない」(F,'86)
- (52) (友達と買い物に行って、買い終わったとき)「いっぱい服買ったねー」—「ほんとやあーお金使いすぎたかも！やばい！」(F,'87)
- (53) (学校に行かなければならない状況において、大雪が降っているのに気づき、ふと出てしまった言葉)「やばい。こんなに雪降ってたら学校行けないよ」(M,'84)
- (54) (ふだん独り言で)「やばっ、電子辞書忘れてきちゃった」(F,'85)
- (55) (単位がとれていなかったとき)「やばい、私留年するかもしれない」(F,'88)
- (56) (状況が危うくなっている時や、困惑している時)「レポートって明日提出だよねー」—「やばい！まだやってないよ」(F,'88)
- (57) (バイトに遅刻しそうなとき)「バイトに遅刻しそう。やばい!!」(F,'87)
- (58) (車を運転していて)「やべー、ぶつかるよだった」(F,'87)
- (59) 「昨日の3限の講義は出席をとっていたよ」—「やばい、とらないと思ってサボってしまった」(F,'90)
- (60) (道を間違ったときや確実に遅刻すると思った時、独り言として)「あつ、ヤベっ」(F,'88)

- (61) (母との会話。私が朝起きてくると)「もう8時だけど大丈夫？」—「ヤバイ、遅刻する
〜！」(F,'86)
- (62) (傘を大学に置き忘れたことに気がついて)「やばい、傘忘れた」(M,'87)
- (63) (独り言として)「やばっ、メール返信しとくの忘れた」(F,'89)

これら(50)~(63)の例における「やばい」は、感嘆詞のように独立語的に否定的な意味で使われている。たとえば、(50)では朝寝坊をしてバイトに遅れそうなことに気がついて「やばい」。(51)では課題のレポートを忘れていたことに気がついて「やばい」。(52)では買い物をし過ぎたことに気がついて「やばい」。(53)では大雪が降っていることに気がついて、そのために大学に行けなくなることを心配して「やばい」。(54)では電子辞書を忘れたことに気がついて「やばい」。そして、(55)では授業の単位が取れていないことに気がついて「やばい」という言葉を発している。

これらの発話例における「やばい」は、いずれも何かの失敗に気づいたときなどに思わず発する感嘆詞「しまった」に置き換えることができる。このような「やばい」は、今現在の自分がおかれた状況に対する感情の瞬間的発露として発せられている。それは形式的には独立語的ではあるが、一つの感情形容詞であると言える。何かしらの出来事に対して発せられているということにおいては、述語的用法と同じである。しかし、そこには、ある出来事に対する発話者の気づき、すなわち発見がある。また、発見的出来事に対する発話者の瞬間的な不安、焦りなどの表現であるという点において属性形容詞の側面が薄れて、感情形容詞の側面が強くなる。また、この独立語的用法の<否定的な「やばい」>においては、すべて自分のおかれた状況、すなわち発話者(一人称)が関わる出来事に対して発せられるものばかりであった。それは、聞き手(二人称)やその他の人・物(三人称)が話題となる場合、それが自分とは直接関わりがない出来事に対しては否定的な意味では感嘆することができないからであると考えられる。また、その出来事は発話時点を基準にすると、過去、現在、未来のいずれの出来事であってもよい。これら(50)~(63)においては、過去における自分おかしミス、現在の自分のおかれたまずい状況、また未来の自分の身に及ぶ好ましくはない事態に気がついて「やばい」という言葉を発している。

3.2.2. 独立語的用法の<肯定的な「やばい」>について

独立語的用法の<肯定的な「やばい」>の例として、たとえば、次の(64)~(77)がある。

- (64) (格好いい人を見たとき)「やばい、あの人かっこいい」(F,'89)
- (65) (かわいい子猫を見て)「やばい！ちょーかわいーんだけどお!!」—「うわー!!この猫やばいねえー!!」(F,'89)
- (66) (親が奮発して高いお肉を買ってきてくれて、それを食べた私と妹は)「やばいつ、やっぱ違うわあ!!」—「やばいっ、めっちゃおいしい!!」(F,'85)
- (67) (友達と買い物に出かけ、とあるブランドのお店に置いてあったカバンを見て)「このカバンすごいかわいい！ヤバイ!!」—「本当やなあ！」(F,'87)
- (68) (自分の会いたい人、憧れの人に偶然出くわしたとき)「やばーい!!今あの人に会っちゃった!!!」(F,'87)
- (69) (ツーリングをしていて、夕方の海がとてもきれいだったとき)「ねー、あれ見て！ヤバイ、めっちゃきれい！」—「うわあ、すっごいきれい。マジでヤバイねー」(F,'85)

- (70) (ゲームセンターのユーフォーキャチャーでぬいぐるみをとれたとき)「やばい！とれた！
やったー！」(M,'85)
- (71) (バスケの試合で、絶対に入らないと思っていたシュートが入ったとき)「やばっ、入っ
たし」(M,'87)
- (72) (はがきの宛名を書いているときに)「やばい、すごく上手に書けた!!」(F,'85)
- (73) (道ばたで犬を見たり、ぬいぐるみなど、とにかく何かかわいいものを見たとき)「やばーい、
かわいいー」(F,'88)
- (74) (高校の部活(体操)の大会で他校の選手がムーンサルトを決めたとき)「やっべえ〜、今
の見た？ムーンサルトだぜ〜」—「やべえなあ〜。ムーンサルトなんてオリ
ピック級だよな〜」(M,'86)
- (75) (何かプレゼントをもらった時)「ヤバい。うれしい。ありがとう」(F,'88)
- (76) (テストでよかったときに)「やばい、今日すごく良くできた」(F,'89)
- (77) (名古屋ドームに初めて行って、そのスケールに圧倒されたとき独り言として)「やばい、こ
のドームまち広い」(F,'89)

これら(64)~(77)の例における「やばい」は、感嘆詞のように独立語的に肯定的な意味で使われている。たとえば、(64)では格好いい人を目撃して「やばい」。(65)では道ばたで可愛い子猫を見つけて「やばい」。(66)では親が奮発して買ってきてくれた肉を食べて「やばい」。(67)ではお店で可愛いカバンを発見して「やばい」。(68)では偶然憧れの人に遭遇して「やばい」。そして、(69)では夕方に景色の良い海を目にして「やばい」という言葉を発している。

これらの例における「やばい」は、何かを発見したときの喜び、驚き、嬉しさを表す言葉として独立語的に使用されている。その対象は、人、動物、商品、景色など、偶然に目にしたものの、または、プレゼントなど、その出来事の状況が発話者にとって良いもの、好ましいもの、素晴らしいもの、感動するものであるような場合である。これらにおいても、3.2.1.独立語的用法の<否定的な「やばい」>と同様に発話者の感情の瞬間的発露としての感情形容詞である。発話者の気持ちの高ぶりを表すと言っても良い。これらが使われる場面は、魅力的な人物や素敵な物を発見したときが多い。そうしたときの喜びや驚きを表す言葉として、また、それらの人や物を褒める言葉として使われている。その意味は「素敵」「可愛い」「格好いい」「きれい」などである。また、たとえば、(70)(ユーフォーキャチャーでぬいぐるみをとれたとき)「やばい！」のように自分に良いことが起こったときに、その状況を表すための言葉としても使われる。出来事としては、発話者(一人称)の他、その他の人・物(三人称)に関わるものが多い。聞き手(二人称)の人物それ自体に直接関わる出来事の発話例はまだ見つかっていない。独立語的用法の<否定的な「やばい」>と異なるのは、その出来事が必ずしも発話者(一人称)に関係することではなくても良いという点である。つまり、肯定的な意味においては、その他の人・物(三人称)が話題となる発見的出来事に感嘆することができるのである。また、その発見的出来事とは発話時点における現在の出来事に限定されることも独立語的用法の<否定的な「やばい」>と大きく異なる。

3.3. 副詞的用法の「やばい」について

副詞的用法の「やばい」では、程度を表す用言を修飾して、それを強調する程度副詞として「やばい」が使用される。

3.3.1. 副詞的用法の〈否定的な「やばい」〉について

副詞的用法の〈否定的な「やばい」〉の例として、次の(78)～(91)がある。今回のアンケート調査で集まった用例のうち、否定的な意味で使われている副詞的用法の「やばい」は次の14件のみであった。

- (78) (新しくとった授業の感想を聞かれたとき)「やばいくらい難しかった」(F,'86)
- (79) (新しくとった授業の感想を聞かれたとき)「やばいくらいつまんない」(F,'86)
- (80) (程度が甚だしいとき)「今日やばいくらい雨降っとたよね!？」(F,'86)
- (81) (むかつく度合いが大きいとき)「やばいくらいむかつく」(F,'86)
- (82) (とても頭が痛いときに)「ヤバいくらい頭が痛い…」(F,'85)
- (83) (部活動のソフトテニスでボールを打っていて調子が悪いとき)「やばいほど打てない」(M,'86)
- (84) (課題などについて何かの量がものすごくあるという意味で)「やばいくらいあるじゃん」(M,'87)
- (85) (食べ物を食べて、「とても悪い」という意味で)「やばいくらい苦い」(F,'90)
- (86) (とても暑いときに)「やばいくらい暑い」(M,'89)
- (87) (気持ち悪いものを見て)「ヤバイきもい」(F,'89)
- (88) (すごくきもち悪い物を見たときに友達に)「やばいきもいね」(F,'88)
- (89) (マズイものを食べたとき)「やばいまズイ」(M,'89)
- (90) (怒っているときに)「やばいうざい」(F,'89)
- (91) (疲れたときに)「やばい疲れた」(F,'89)

これら(78)～(91)の例における「やばい」は、否定的な意味で程度を強調する程度副詞として使われている。これらの多くは、「やばいくらい～」または「やばいほど～」という形で表現される。「やばい」は、この場合、「とても」「すごく」「まったく」といった程度を表す副詞の代わりとして使われており、それに続く程度を持つ用言が強調されている。たとえば、(78)「やばいくらい難しかった」では「難しい」、(79)「やばいくらいつまんない」では「つまらない」、(80)「今日やばいくらい雨降っとたよね!？」においては「雨が降る」、(81)「やばいくらいむかつく」では「むかつく」、そして(82)「ヤバいくらい頭が痛い…」では頭痛の程度が強調されている。また、(87)～(91)においては、「やばいくらい～」または「やばいほど～」が省略されて「やばい〇〇」という表現形式をとっている。たとえば、(87)「ヤバイきもい」は「やばいくらいきもい」、(90)「やばいうざい」は「やばいくらいうざい」の省略形である。なお、この「やばい〇〇」では、実際の発話においては「い」の部分でピッチ(音の高さ)が上がることに特徴がある。さらに、これらの省略が進めば、「やばきも」「やばうざ」という言葉ができあがる。今回のアンケート調査では、たとえば、「やばきも」のような「やば〇〇」という例は見つからなかった。しかし、ネット上で「やばきも」という言葉で検索をかけると、いくつもの例が見つかる。なお、今回のアンケート調査では、副詞的用法の〈否定的な「やばい」〉の発話例はこれら(78)～(91)の14件がすべてであり、それほど多くはなかった。このことから、副詞的用法の〈否定的な「やばい」〉の使用は限定的であるのかも知れない。また、これらの事例における出来事は、発話者(一人称)とその他の人・物(三人称)に関わるものばかりであり、聞き手(二人称)に関係するものはまだ見つかっていない。出来事は発話時点において過去または現在のものであり、未来を表す出来事の発話例は見当たらなかった。

3.3.2. 副詞的用法の＜肯定的な「やばい」＞について

副詞的用法の＜肯定的な「やばい」＞の例として、たとえば、次の(92)～(105)がある。

- (92) (何か目立っていたり、すごかったりする物などに使う)「この車ヤバイくらいかっこいい」(M,'86)
- (93) (かっこいい異性などを見つけたときに)「あの人やばいくらいかっこいい」(F,'89)
- (94) (服を見ていたりして、「すごく可愛い」と思ったときに)「やばいくらい可愛い」(F,'87)
- (95) (信じられない程良いとき)「この料理やばいほどおいしい」(M,'89)
- (96) (自分の知っている範囲をこえているすごい出来事に対して)「やばいくらいに今頭がさえてる!!」(F,'88)
- (97) (メチャメチャよい結果。びっくりすることが起きたとき)「昨日のテストどうだった?」—「勉強してなかったけど、やばいくらいできた」(M,'86)
- (98) (大好きなバンドのライブに行ったとき)「あ!!○○(人名)が出てきたよ!!」—「ホントだ! やばいくらいかっこ良い!!」(F,'88)
- (99) (弓道部での会話)「あの先輩はやばいくらい当てる」(F,'89)
- (100) (かわいいものを見たときに)「あれやばいかわいい」(F,'88)
- (101) (きれいな人を見て)「あの人やべえかわいくない?」(M,'85)
- (102) (友達と一緒に買い物に行って、自分の好みの服やかばん、靴などを見つけて興奮したときに)「やばいかわいい」(F,'89)
- (103) (すごくキレイな人やカッコイイ人を見つけたとき)「あの人やばいキレイ」(F,'89)
- (104) (友達と食事をした際)「この飯ヤバいうまくねえ?」—「うん、ヤバいうめえ!!」(M,'87)
- (105) (友達とケーキを食べに行って、おいしいと表現するように)「ヤバうまっ」(F,'87)

これら(92)～(105)の例における「やばい」は、肯定的な意味で程度を強調する程度副詞として使われている。「やばいくらい～」または「やばいほど～」という形式で、それに続く用言の程度を強調している。たとえば、(92)「この車ヤバイくらいかっこいい」では「車がかっこいい」、(93)「あの人やばいくらいかっこいい」では「人がかっこいい」、(94)「やばいくらい可愛い」では「服が可愛い」、そして(95)「この料理やばいほどおいしい」では「料理がおいしい」の程度を強めている。その他、その形が省略された「やばい○○」または「やば○○」という事例がいくつもある。それは、たとえば、(100)「やばいかわいい」、(103)「やばいキレイ」、(104)「ヤバいうめえ!!」または(105)「ヤバうまっ」などである。繰り返しになるが、この「やばい○○」では、実際の発話においては「い」の部分でピッチ(音の高さ)が上がることに特徴がある。なお、(105)「ヤバうまっ」のように「やば○○」となる場合、その「やば」の部分は平板型のアクセントになることもあるが、一般的には「ば」の部分が高くなる。

副詞的用法においては、＜否定的な「やばい」＞も＜肯定的な「やばい」＞も程度副詞であるということは共通である。ただし、＜肯定的な「やばい」＞の発話例は、その省略形も含めて＜否定的な「やばい」＞の発話例よりも多かった。なお、これらの事例における出来事においても、発話者(一人称)とその他の人・物(三人称)に関わるものばかりであり、聞き手(二人称)に関係するものまだ見つかっていない。また、出来事は発話時点において過去または現在のものであり、未来を表す出来事の発話例は見当たらなかった。

3.4. 「やばい」を使う若者たちの心理

なぜ若者たちは「やばい」を肯定的な意味においても使用するのでしょうか。そこには、確かに統制された社会において否定的な対象を良いものとみなそうとする若者たち独特の価値観が働いている(秋月2005:66)とも考えられる。しかし、ここではそのこととは別に、若者たちの仲間内特有の心理と言語が持つ機能の一側面に焦点を当てて考察してみたい。

若者たちが使用する「やばい」には、<否定的な「やばい」>と<肯定的な「やばい」>があり、さまざまな形容詞の代替をする。そのため、「やばい」の意味はとても多義である。では、若者たちはどのようにして「やばい」の多様な意味を理解しているのでしょうか。たとえば、次の(106)～(109)のような発話例がある。(106)では否定的な意味で、(107)～(109)では肯定的な意味で「やばい」が使われている。

- (106) (映画について「恐い」という意味で)「あの映画はかなり恐くなかった？」—「あれはやばいねー」(M,'86)
- (107) 「この店のオムライスやばくない？」—「そうだね。最近食べた中で一番やばい」(M,'89)
- (108) (CDについて話をしている)「あのCDやばくない？」—「うん、めっちゃやばい！何回も聴いたし」(F,'88)
- (109) (飴を口にして)「この飴やばくない？」—「うん、すごい美味しい」(F,'88)

「やばい」は否定的な意味でも、肯定的な意味でも、そしてさまざまな形容詞の代わりとしても使われる。そのため、聞き手はその「やばい」の意味を判断しなければならない。これら(106)～(109)の発話場面では話し手は聞き手に同意を求めており、聞き手にはその「やばい」の意味がちゃんと理解されていることが分かる。他方、次の(110)の発話例では、聞き手には話し手が使った「やばい」の意味が理解できていない。

- (110) (友人とゲームの話をしていた時)「あのゲームやばいよ」—「やばいってどうやばいの？」—「すごくおもしろいってことだよ」(F,'86)

この(110)では、話し手は「やばい」を「おもしろい」という意味で使っている。しかし、聞き手はその「やばい」の意味が分からず話し手に聞き返している。「やばい」の意味は多様であるために、聞き手にその意味が伝わらないことは時として起こりうることだと考えられる。しかし、アンケート調査によって集まった発話例には「やばい」の意味が通じていないと思われる例はほとんどなかった。そのように意味が不明であり、そのことを聞き返すような事態は、実際の所、あまりないと思われる。また、次の(111)は映画の感想を話す2人の会話である。

- (111) (アクション映画を見終わったあとで、その映画の感想を話している二人)「マジヤバくなかった？」—「うん、ってかまず俳優がヤバかった」—「あ、分かる。私的に目が有り得ん」—「だよな」(F,'87)

この(111)の例において「やばい」は肯定的な意味で使われている。この場合、「やばい」は

「俳優がカッコよかった」という意味であるという。しかし、(111)の会話文だけでは、その「やばい」が肯定的な意味であるのか、それとも否定的な意味であるのかは分からない。これを判断するためには、話し手の言い方、声のトーン、発話場面の状況などの言語外の情報が必要となる。しかし、そのような言語外の情報があったとしても、「やばい」は細かい内容を言い表すことはできない。映画を観終わった後で、「マジヤバくなかった？」と楽しそうに言われれば、話し手がこの映画に対して好感を持ったことは分かる。しかし、その映画の音楽が素晴らしかったのか、俳優が格好よかったのか、内容に感動したのかなどの細かいことは分からないのである。たとえ仲間同士であっても、「やばい」の正確な意味は伝わらず、否定的な雰囲気または肯定的な雰囲気だけが伝わっていると考えられる。仲の良い親しい者同士のおしゃべりにおいては、言葉の厳密な意味よりも、会話場面の全体の雰囲気やノリが大切となる。つまり、そうした点においては、「やばい」の意味は漠然としており、その本当の意味する所は聞き手にとっては曖昧であることになる。さらに言えば、「やばい」の意味は厳密でなくても良いのであり、また、そのことこそが若者たちにとってはとても大きな意味を持つと考えられる。

「やばい」の意味解釈には語用論的推論によって言語的意味が補われる必要があるという指摘がある(武内2007)。「やばい」は、その言葉自体の意味は薄くなって、その意味解釈は言語外の情報に移行していると言える。つまり、「やばい」が否定的な意味になるのか、肯定的な意味になるのは、具体的な会話場面において個別に判断されることになる。その意味において「やばい」の意味解釈は極めて状況依存的である。若者たちは瞬時に語用論的推論をして、それが否定的な意味なのか、肯定的な意味なのかを判断している。では、なぜ若者たちにおいては瞬間的な語用論的推論が可能になるのであろうか。それは、一言で言えば、仲の良い者同士、親しい者同士など、同じ仲間空間を構成する間柄であれば共有する情報が多いからである。共有情報は同じ仲間空間に属していることにより多くなる。共有情報が多ければ、お互いの会話では省略表現が多用される。実際、省略表現は「若者ことば」の大きな特徴である(米川1998:50-55)。そのことにより、会話にリズムとテンポが生まれ、会話が促進されておしゃべりが楽しく盛り上がる。「やばい」は否定的な意味でも、肯定的な意味でも使われる。そして、会話場面において直面した発見的出来事に対する瞬間的な感情を表す機能もある。そのため、「やばい」という言葉を使用すれば会話はとても刺激的になり、会話参加者の共感性が高まる。先の発話例(106)～(109)で示したように、「やばい」は相手に同意を求める場面でもよく使われることを考えると、このことはとても興味深い。そのような場合、「やばい」は感嘆表現であることを超えて、明らかに共感表現になっていると言える。

省略表現によって会話参加者の共感性が高まることについては、次の冷泉(2006)のような指摘(112)がある。なお、()内の語句、記号および下線は筆者による加筆である。

- (112) 「(省略表現を使用することにより共感性が高まるのは) (a)一般的に省略表現では、省略をすることで"空気を共有している"という親近感のメッセージを送りつつ、暗号解読のカタルシスを瞬間に感じているからである。そして、(b)表現全体に一つのスタイルがあり、そのスタイルに参加する喜びもあるからだ。」(冷泉2006:26)

この(112)(a)(b)のことを踏まえれば、「やばい」の新しい用法が若者たちの間に広がりを見せ

ていることの説明がつく。具体的な発話場面において使用される「やばい」は、その意味解釈が極めて状況依存的であるために、その意味を理解するためには語用論的推論が必要となる。発話の意味が厳密ではなくとも、そのおおよそが理解されることによって共感性が高まる。そして、若者たちはお互いに会話に参加することの喜びを味わうことができる。その結果、お互いの仲間意識または連帯意識が強化されると考えられる。「やばい」という言葉そのものの意味は曖昧であり、その意味解釈は発話場面の状況に依存する。また、「やばい」は多様な形容詞を代替する。そして、場合により正反対の意味にもなり得る。そうであるからこそ、若者たちは「やばい」を会話を楽しむために使用していると考えられる。さらに言えば、若者たちは自分の瞬間的感情をストレートに前面に出して仲間との共感性を高めることができる「やばい」という言葉を発することが楽しいのである。

梶井(2008)によれば、<肯定的な「やばい」>の新しい意味の発生は「心体に不都合が出るくらいすごい物事」→「心体がやばくなるほどすごい物事」→「やばくなるほどすごい物事」→「やばい物事」という俗語変換と大胆な省略によるとしている。そして、省略表現である「やばい」の意味解釈が状況依存的であることについて、次の(113)のように述べている。なお、記号および下線は筆者による加筆である。

- (113) 「では、なぜそのような価値判断を表す根幹部分の省略が、人々に好まれるのであろうか。明らかに、そのような(a)省略が行われても不都合が生じないためには、省略されてしまった価値判断に関わる前提が、お互いに正しく理解されていなければならない。つまり、省略部分を正しく補い意味に齟齬を生じさせないためには、多くの経験と価値判断を共有している同じ集団に属していることが、お互いに認識されていなければならないのである。また、(b)省略された部分を意識の下で確認しあうという行為が、お互いの間で価値観が共有されていることの理解を深める点も見逃せない。(c)言葉の意味にあいまいさがあるときには、理解するために聞き手のほうにはあいまいな部分を頭の中で補う必要が生まれる。そして、その間隙を共通の言葉で埋めるという体験を通じて、お互いが利害を共有している仲間であるということをいっそう深く感じることができるのである。」(梶井2008)

この(113)(a)~(c)に述べられていることは、何も<肯定的な「やばい」>におけることだけではない。<否定的な「やばい」>についても、そして省略表現が多い「若者ことば」の全般に言えることでもある。

また、稲増(2002)によれば、「やばい」を使う若者たちの心理には「やばい」という表現を理解できるかできないかによって、自分たちと同じ感覚を共有できる人間とそうでない人間を分けるある種の排除の論理が働いているという。逆に言えば、それはお互いの仲間意識または連帯意識を高めるために使用していることになる。しかし、それは「若者ことば」だけに限定されるものではない。言語の機能にはその一側面として、それを使用する仲間同士をお互いに結びつける親和性と仲間以外を排除する排他性の二面性がある。若者たちの「やばい」という言葉の使用について注目すべきことは、「すごい」「楽しい」などの形容詞の意味変化と同様に、「やばい」も否定的な意味から肯定的な意味へと変化していく過程にあるということではない。注目す

べきは、若者たちの「やばい」という言葉の使用が若者たちの仲間心理と言語一般の機能の中に位置づけることができるということである。

4. 結論

以上、本稿では若者たちが使う「やばい」という言葉について、実際の具体的な発話例をもとに次の(イ)と(ロ)の2つの問題を考察した。

- (イ) 「やばい」の用法と意味
- (ロ) 「やばい」を使う若者たちの心理

その結果、次のような結論を得ることができた。

問題(イ)については、若者たちが使用する「やばい」の用法と意味について、それが使われる対象(出来事)とともに考察した。「やばい」の用法別にその評価対象となる出来事の話題と時間および機能の関係をまとめると、次の表(114)のようになる。

(114) 「やばい」の用法と出来事との関係 (◎○該当アリ、×該当ナシ)

対象			＜否定的な「やばい」＞			＜肯定的な「やばい」＞		
			述語	独立語	副詞	述語	独立語	副詞
出 来 事	話 題	発話者	◎	◎	○	○	○	○
		聞き手	◎	×	×	○	×	×
		三人称	◎	×	○	◎	◎	◎
時 間		過去	○	○	○	○	×	○
		現在	◎	◎	○	◎	◎	◎
		未来	○	○	×	×	×	×
「やばい」の機能			属性/感情形容詞		程度副詞	感情形容詞		程度副詞

詳しくは本論において述べたので、ここではその概略を述べることにする。「やばい」には、否定的な意味で使われる＜否定的な「やばい」＞と肯定的な意味で使われる＜肯定的な「やばい」＞がある。それぞれについて述語的用法、独立語的用法、副詞的用法の3つの用法がある。そして、「やばい」の評価対象となる出来事の話題として、発話者(一人称)、聞き手(二人称)、および、その他の人・物(三人称)が関わる状況がある。表(114)では、各用法別に、発話例があるものに対しては○、発話例が多いものには◎を付けてある。そして、現時点において発話例

がまだ見つからないものには×の印を付けてある。また、その出来事が表す時間は発話時点基準として過去、現在、未来の3つに区分できる。どの用法においても、現在の出来事に対する評価として「やばい」が使われることが多い。しかし、＜肯定的な「やばい」＞では、もっぱら現在の出来事に対して使われる。「やばい」の機能については、副詞的用法における程度副詞の他は、属性形容詞または感情形容詞としての機能が認められる。特に＜肯定的な「やばい」＞においては、さまざまな形容詞を代替する感情形容詞の側面が強くなっている。出来事の事態の程度を表現する副詞的用法、および、各用法の細かい相違点を除くと、＜否定的な「やばい」＞と＜肯定的な「やばい」＞の一番の違いは、その評価の対象となる出来事の話題となるもの、および、出来事が表す時間にある。＜否定的な「やばい」＞では、発話者（一人称）または聞き手（二人称）のおかれた否定的な状況が話題になることが多い。また、その出来事が表す時間は、現在が一番多いが、過去であっても、未来であっても良い。それに対して、＜肯定的な「やばい」＞においては、発話者（一人称）または聞き手（二人称）よりも、その他の人・物（三人称）が話題になることが多く、その評価の対象となる出来事は現在のものに限定される。これは＜肯定的な「やばい」＞がある発見的出来事に遭遇したその時点において発せられる感嘆表現、さらには共感表現にも移行しているためであると考えられる。

なお、今回のアンケート調査で集まった500以上にのぼる実際の発話例には「やばい人」「やばいテスト」「やばいケーキ」など、「やばい」が体言を修飾する付加語的用法の発話例はほとんど見当たらなかった。それは、実際の会話における「やばい」は、ある出来事の状況を全体的に捉えて評価する属性形容詞であること、また、ある発見的出来事に遭遇したときに感嘆詞のように発話者の瞬間的な感情を独立語的に表現する感情形容詞に移行してきているためであると考えられる。現代の若者たちにおいて、「やばい」は否定的な意味においても、また、肯定的な意味においても、発話者の心が大きく動かされることを言い表す表現に変わりつつある。

次に、「やばい」の新しい用法である＜肯定的な「やばい」＞の用法上の広がり方について考えてみる。ただし、まずは副詞的用法を除いて、述語的用法と独立語的用法について考えることにする。それは否定的な意味の用法と肯定的な意味の用法の対照性から推測することができる。表(114)から、新しい用法である＜肯定的な「やばい」＞は従来の用法である＜否定的な「やばい」＞の引き写しではないことが分かる。ごく一部を除いて、そこには対称性はない。つまり、新しい用法は従来の用法の単純なコピーではないのである。それは、＜肯定的な「やばい」＞の用法は別の形で新しく生まれたものであることを意味する。表(114)の各用法における◎○×の印は、現研究段階における発話例の該当状況を示したものである。これら◎○×の分布状況を考慮すると、「やばい」の用法は否定的な意味から肯定的な意味へより限定的に展開していることが分かる。つまり、新しい用法は表(114)が示すように、「やばい」の評価対象となる出来事の話題が発話者（一人称）、聞き手（二人称）、または、その他の人・物（三人称）からその他の人・物（三人称）中心へ、出来事が表す時間が過去、現在、未来から現在へとより限定的に進展している。副詞的用法は、否定的な意味においても、肯定的な意味においても用言が表す事態の程度を強めるというものであった。そうした意味においては、副詞的用法の新しい展開は単純である。それに対し、述語的用法と独立語的用法においては、これらのことからまったく新しい用法が展開されていると言える。その新しい用法とは、「やばい」という属性形容詞が感情形容詞としての機能も合わせ持つことにより、出来事の属性表現から感嘆表現、さらには共感表現へと拡大したものである。そして、それが発話時点における感嘆表現または共感表

現であるからこそ、その評価対象となる発見的出来事の多くは発話時点における現在であり、その話題の多くが三人称(たとえば、偶然目にした格好いい人、可愛い動物、美味しいデザート、素敵な洋服など)中心となるのである。「すごい」「楽しい」などの形容詞は、もともとは否定的な意味であったことが知られている。しかし、以上のことを考えると、「やばい」の新しい用法は否定的な意味から肯定的な意味へという単純な意味変化ではないことが分かる。

問題(ロ)については、次のことが明らかになった。若者たちが使用する「やばい」は、否定的な意味においても、肯定的な意味においても使用される。それはさまざまな形容詞の代替をする。そのため、「やばい」の意味はとても多義である。また、「やばい」は感情表現としての側面も強いと同時に一つの省略表現でもあり、その意味解釈は極めて状況依存的である。したがって、その意味を理解するには語用論的推論が必要となる。そのことによって、会話参加者の共感性が高まり、若者たちは会話をすることの喜びを味わうことができる。その結果、お互いの仲間意識または連帯意識が強化される。そのことは、「やばい」が相手の同意を得る場面においても多く使用される共感表現になっていることから間接的に裏付けられる。「やばい」を使う若者たちには、そのような仲間内特有の心理があることを明らかにした。「やばい」の意味は多義であり、漠然としているのであるが、そのことこそが若者たちの仲間内のコミュニケーションにおいてはとても重要なのである。また、そこには「若者ことば」だけではなく、言語の機能の一側面として、それを使用する仲間同士をお互いに結びつける親和性と仲間以外を排除する排他性の二面性があることも述べた。

以上、本稿では具体的な発話例にもとづいて、近年、若者たちの間に広がる「やばい」という言葉の用法と意味、および、そこに見られる一定の規則性を明らかにした。また、それを使用する若者たちの心理についても述べた。

最後に、参考のために若者たちの「やばい」という言葉の使用にいち早く着目して、それを掲載した『大辞林(第三版)』における次の記述(115)を紹介しておく。なお、(115)[]内の語源説明にある「やば」とは、「具合の悪いさま、危険なさま、不都合なさま」を意味する形容動詞である。

(115) 「やばい」(形)

〔「やば」の形容詞化。もと、盗人・香具師などの隠語〕

①身に危険が迫るさま。あぶない。「一・いぞ、逃げろ」

②不都合が予想される。「この成績では一・いな」

③若者言葉で、すごい。自身の心情が、ひどく揺さぶられている様子についていう。「この曲、一・いよ」

〔若者言葉では「格好良い」を意味する肯定的な文脈から、「困った」を意味する否定的な文脈まで、広く感動詞的に用いられる〕

〔『大辞林』2006:2561〕

今後、「やばい」の辞書的な意味記述を行う場合、その記述の仕方は一つの大きな課題となるであろう。

参考文献等

- 秋月高太郎(2005)「かっこいいから「やばめ」、おいしくて「やばい」」、『ありえない日本語』筑摩書房(ちくま新書)
- 稲増 龍夫(2002)「若者ことばの底にあるもの」、『一冊の本』朝日新聞社
- 岩田奈津紀(2009)「若者言葉としての「やばい」について」、岐阜大学地域科学部卒業論文
- 梅津 正樹(2006)「「殺す」がかっこいい!」、『言葉おじさんの気になる言葉』
<http://www.nhk.or.jp/a-room/kininaru/2003/12/1217.html>
- 梶井 厚志(2008)「やばい」、『コトバの戦略的思考』(第12回)
<http://diamond.jp/series/kajii/10012/>
- 金子 みどり(2008)「何が「やばい」か」、『気流』(読売新聞080413)
- 窪菌 晴夫(2006)「若者ことばの言語構造」《[特集]若者ことば大研究》、
『月刊言語』(2006/3:52-59)大修館書店
- 佐竹 秀雄(2005)「すごくやばい」、『ことばのこぼこ』(読売新聞050726)
- 武内 道子(2007)「認知語彙論への試み—「やばい」をめぐる—」、神奈川大学『人文学研究所報』第40号
- 新村 出(2009)『広辞苑(第六版)』岩波書店
- 文化 庁(2005)『平成16年度 国語に関する世論調査 敬語・漢字・言葉の使い方』国立印刷局
- 松村 明(2006)『大辞林(第三版)』三省堂
- 矢澤 真人(2005)「やばいよ、この味」、北原保雄〔編〕『続弾! 問題な日本語～何が気になる? どうして気になる?』大修館書店
- 米川 明彦(1996)『現代若者ことば考』丸善ライブラリー
- 米川 明彦(1997)『若者ことば辞典』東京堂出版
- 米川 明彦(1998)『若者語を科学する』明治書院
- 米川 明彦(2003)『日本俗語大辞典』東京堂出版
- 冷泉 彰彦(2006)『「関係の空気」「場の空気」』講談社(講談社現代新書)
- ロゴヴィスタ社(2009)『現代用語の基礎知識1991～2009』(自由国民社『現代用語の基礎知識』の電子辞書版)